

【参考資料】

一般乗合旅客自動車事業

(1) 上限運賃の平均改定率

23.2%

※現行運賃における各区间運賃の平均改定率

(2) 現行上限運賃と申請上限運賃比較表

(単位：円)

	現行上限運賃	申請上限運賃
初乗り運賃	180	220
定期旅客運賃 (通勤定期 1 ヶ月)	7,240	8,840
定期旅客運賃 (通学定期 1 ヶ月)	6,260	7,660

(3) 代表的な区间運賃・1 ヶ月定期運賃

(単位：円)

		片道区间運賃		通勤定期運賃		通学定期運賃	
		現行 運賃	改定運賃 (予定)	現行運賃	改定運賃 (予定)	現行運賃	改定運賃 (予定)
松山市駅	大街道	180	220	7,240	8,840	6,260	7,660
東南ループ線		180	220	5,440	7,340	4,890	6,720
松山市駅	総合運動公園口	590	730	23,660	29,260	20,470	25,310
松山市駅	古川	290	350	11,660	14,070	10,090	12,180
松山市駅	椿前	360	450	14,470	18,090	12,530	15,660
松山市駅	久米	410	500	16,480	20,100	14,270	17,400
松山市駅	桑原	270	330	10,850	13,270	9,400	11,480
松山市駅	北伊予駅前	420	510	16,880	20,500	14,620	17,750
松山市駅	川内	790	990	31,070	38,840	26,630	32,990

(4) 輸送人員および収支状況

		輸送人員	収支
2021 年度		4,818 千人	△460,765 千円
2024 年度 (平年度予測)	改定前	6,019 千人	△715,309 千円
	改定後	5,822 千人	△438,017 千円

※2024年度運賃改定後の輸送人員、収支状況は上限運賃での推計値です。

(5) これまでの経営合理化の状況及び今後の取り組み

これまで、エネルギー価格の高騰に起因する輸送経費が増大する中、運行計画の見直しや車両の使用期間延長などの取り組みを通じて事業運営の合理化を図るとともに、管理コストの削減やアイドリングストップによる燃料費削減等に努めてまいりました。

今後も収支の改善を図りつつ、バリアフリー化の推進、老朽化した車両・施設の更新など、継続して安全輸送の確保と利便性の向上に努めてまいります。

(6) サービスの向上に関する今後の取り組み

安全・安心な輸送サービスを提供するため、事故防止や接遇向上のための教育を充実させるとともに、脱炭素社会実現のため環境負荷の少ないEVバス導入を積極的に行ってまいります。さらに、ICやITの利活用、キャッシュレス決済の拡充を検討するなど、サービス向上への取り組みに努めてまいります。

以 上